

# 川崎哲也『サクラ図譜』

## 出版記念原画展を観る

加藤 良一 May 15, 2010



世の中、どんなご縁があるかわからないものです。

男声合唱プロジェクトYARO会の一員である男声合唱団メンネルA.E.C(埼玉県上尾市)の**新島聡幸**さんから頂いた一通の案内状が、あらたな植物の世界へと導いてくれました。

「**川崎哲也『サクラ図譜』出版記念原画展**」が、平成22年(2010) 5月1日～5日までJR線「さいたま新都心駅/北与野駅」の近くにあるギャラリー書楽で開催されました。新島聡幸さんからのご案内で一も二もなく駆けつけました。

植物学者の**牧野富田郎**博士の『**牧野新日本植物図鑑**』という有名な図鑑がありますが、その巻頭ページを飾る「**やまもも**」*Myrica rubra Sieb. et Zucc.*の細密画を描かれたのが**川崎哲也**さんです。

「**やまもも**」は、牧野富太郎博士が亡くなる数日前に川崎哲也さんが書き上げた作品ですが、これを病床でご覧になった牧野博士は、「見よ見よ！ 出版するぞ」と叫んだと朝日新聞で報じられています。



# 遺作のサクラ 咲き誇る



◎「御衣黄」(1956年)  
◎「江戸」(1953年)  
＝いずれも新島依子さん提供

原画展は、川崎さんの作品をまとめた「サクラ図譜」(アポロ社)が3月に出版されたのを記念したもの。「江戸」「御衣黄」「関山」など、約40種90点に及ぶ作品を展示する。全体図だけでなく、花びらや葉、茎、種といった各部分の細密な図解が描かれている。



川崎哲也さん

## 教師・研究者 川崎哲也さん描く

全国でも著名なサクラ研究者として知られ、2002年に肺炎のため73歳で他界した旧浦和市の元中学校教師、川崎哲也さんが残したサクラの原画展が、1日からさいたま市中央区下落合2丁目の「ギャラリー・書画」で開かれる。専門家から「写真より精密」と評される絵は、ポタニカルアートとしても楽しめる。

## 精密な原画90点展示 さいたままで

込んだ。特に栽培品種の分類や鑑定に尽力し、多くの新種を見つけて命名している。「日本の桜」を出版するまで、急遽するまで数々の功績を残した。

原画は死後、遺族が膨大な蔵書や標本などの資料の中から見つけた。1949年から7年間に描かれたもので、中には一部しか彩色されていない作品も、それでも研究者からは「知りた情報すべてわかる」と賞されたという。

川崎さんは、吹奏楽の発展にも尽力した。市中学校吹奏楽連盟設立の中心になり、市内の中学生を集めた合同練習では、吹奏のオーケストラで首席オボエ奏者を兼任する藤沢克也さんを教えた。

生前、川崎さんは「桜のことを多くは語らなかった。葬儀には各方面から関係者が集まり、妹の新島依子さん(例)は『遺族も含め参列者は皆、多岐な才能に驚かされた』と振り返る。様々な顔を知ってもらおうと依子さんがまとめた追悼文集が縁で、原画の存在が知られ、図譜の出版に至った。

2010年5月1日 朝日新聞

(新聞の切り抜きを新島さんより頂きました↓)



きのうの牧野博士 博士の次男牧野百世氏撮影

享月 日 新 聞 (夕刊)

昭和31年7月13日

## 故郷のやまももの標本必ず出版

### 牧野翁 病床で張切る

「これ見よ、これ見よ」――十あつた。  
「今朝、突然ベッドから半身を起さんばかりに大奮闘をばりあつて、周囲の人を驚かせたの。十日間ほとんど何も食べずには、牧野博士――さし上げた手には、一枚のきれいな写生図が」とは思えないほど輝いていた。

この絵は実物大の「やまもも」の写生図――先月末、牧野博士重体の知らせに、博士の故郷高知市丸ノ内高校の全生徒は、博士が小さいころから大好物だった裏山の「やまもも」を照らうと結合した。その「やまもも」は、いまも大奮闘をばりあつて、周囲の人を驚かせたの。十日間ほとんど何も食べずには、牧野博士――さし上げた手には、一枚のきれいな写生図が」とは思えないほど輝いていた。

たまたま私の手元にもこの『**牧野新日本植物図鑑**』がありました。昭和48年12月発行のもので、もう色あせ始めています。

この図鑑について私の大学時代の研究室の先輩に話したところ、その図鑑なら自分も持っている、あの「やまもも」を描いた方と私が遠いとはいえご縁があるとは驚いたとのことで、あらためて日本を代表するすごい図鑑であることを再認識しました。

### 川崎哲也氏 プロフィール

サクラ研究の第一人者**川崎哲也**さんは、昭和4年(1929) 名古屋生れ、宇都宮農林専門学校(現宇都宮大学農学部)卒業の後、教職(中学校教諭)につき、学生の指導にあたりながら**吹奏楽部指導教官**を長く務めた。そのかわら**牧野富太郎**、サクラ品種収集家**佐野藤右衛門**の教えを受け、生涯を教職とサクラの研究に捧げ、サクラ栽培品種の鑑定家としても活躍しました。平成14年(2002)他界されました。

**川崎哲也**さんの妹さんが私の合唱仲間**新島聡幸**さんの奥様**新島依子**さんです。兄の遺志を継いで原画展の開催に漕ぎつきました。会場となったギャラリー書楽は、なんと始まって以来の来客数だったそうです。ご盛会おめでとうございます。

Back

[虫めがねTopへ](#)

Home

[Home Pageへ](#)